

大好きなお兄さんお姉さん

Y・Y（小3男子保護者 2026年2月記す）

「母ちゃん、〇〇市に引っ越したい。」

楽習会の帰り道でした。大好きなお兄さんが「4月から〇〇市の先生になる、6年間くらいは同じ小学校で働く、まだどこの小学校かは分からない、お兄さんが先生だったらめっちゃ楽しいでー」と嬉しそうに話す息子を見て、びっくりしたのです。

自分の興味のあることを話すのは大好き、聞いてほしい、見てほしい息子は、一方的になりがちで、会話のキャッチボールがなかなか難しく、相手の話の途中で、興味あるものを見つけると気の向くままに消えて行ってしまう姿も。

だから、お兄さんからこれだけの話を聞いたこと、そこから自分で考えたこと、なによりそんなに大好きなんだなと思うと、嬉しくて嬉しくて。

昨年2025年3月に初めてアサヒキャンプの説明会に来て、4月からマイスペース、楽習会、8月の1泊キャンプに参加しました。初めての環境、人に慣れるのに時間がある息子には、月1回、1対1で遊んだり勉強したりする会は無理なく慣れていけました。お兄さんお姉さんの名前が出てくるようになり、たくさんの方に関わってもらっていることが分かりました。

キャンプも「泊りはイヤだ」と言っていましたが、いっぱい遊んでくれるお兄さんが行くからと行く気になりました。

しかし当日になると、やっぱりやめようかなと車内で涙ぐんでいましたが、キャンプ場の駐車場でお兄さんの姿を見て、一歩が出ました。

迎えに行った時にはニコニコで楽しかったことが伝わってきました。

帰りのバスでお兄さんお姉さんと一緒になり、カウンセラーだったお姉さんの隣りに座り大喜びでした。その後の電車は別々だったので、「一緒に電車で帰りたい」と駅で大泣きでした。

そんな息子を見て、「キャンプ楽しかったね、またアフターキャンプで遊ぼうね。」と息子にすっと寄り添ってくれるお兄さんお姉さん。いつもこうやって気持ちを支えてくれているんだろうなと、だからこんなに大好きなんでしょうなと思います。

その後「キャンプまた行きたい！」と秋からの「ひだまりキャンプ」も申し込み、もうすぐ1年が経とうとしています。何か嬉しいことがあると「今度の楽習会で教えてあげよつと」と、息子の中でアサヒキャンプの存在がすごく大きくなっているのを感じています。

一生懸命にかかわってくれるお兄さんお姉さん、ありのままに楽しむ子どもたち、見守る大人たち。とてもあたたかくて、優しい空間だなと感じます。たくさんのおたたかさをありがとうございます。これからもよろしくお願ひします。